

備前に仕え、南郷村山にて百石を拝領し柳村に居住している。

阿蘇家「浜の館」落去の節に目丸の山崎家に大宮司兄弟を坂梨弥五助、渡辺軍兵衛と共に隠した西源兵衛の甥に当る。此処には先代の西越前惟延、外の一族の墓所がある。



### 建造物 眞栢左京の墓（一基）

所在地 大字高辻字園

早栖神社の初代神職眞栢左京の祖は高千穂十社大明神の初代の神職眞呂木氏で、足利尊氏が九州に没落した当時九州で足利尊氏について居たが、尊氏が九州を離れて京都に上った後早栖に移住したと伝えられている（この頃は阿蘇家に二人の大宮司職が出来た時である）。



左京は「しよちぎま称王様」と記され、墓碑には「天満宮」とあり、嫡子帯刀外七名が建立しているが、江戸時代に至り損壊したため建て替えているとしている。

左京は早栖に移住の後に嫡子帯刀、弥太郎、弥右進、牧太、利三、利右門、喜兵衛、国三の子を分家させ、早栖八軒を興している屋敷跡が残っている。

社家については、左京、帯刀、祐四郎、弥七、義藤次、弥右門、市之進、牧之進、市之進以後は牧之進、市之進と称号して十四代に亘り社家を勤めている。

### 建造物 芹口山城守の墓（一基）

所在地 大字高畑赤立

草部吉見若彦神の裔孫芹口山城守の墓所である。墓は高塚式で老松あり自然石の墓石がある。

高畑年祚神社の神職芹口右京は、芹口山城守から二十三代の裔孫としている。





建造物 甲斐萬太兵衛の墓（一基）

所在地 大字高畑字宮の下

阿蘇家の戦国時代

の武将甲斐宗運の孫  
で、系譜に依れば高  
千穂岩戸村から移住  
し、甲斐家の祖とさ  
れ「甲斐萬太兵衛藤  
原親恒（改め後、親  
明）」の墓碑を子の甲斐辰次、新助の兩人が建立している。



萬太兵衛は甲斐宗運の氏族で、甲佐の田口村に於て一五〇〇  
石知行とある。

建造物 甲斐親重一族の墓（一基）

所在地 大字高畑字水迫

高畑年祚神社神職の歴代の墓地である。

系譜に依れば、甲斐宗運の孫とされ、甲斐親重左衛門が初代  
となっている。附近に「藤原之墓」も残されている。

建造物 梶原之墓（一基）

所在地 大字伊勢梶原

「寒月玄水居士」

願主 富甚中之造

天保九年（一八三八）八月二十五日

と石碑あり。梶原氏の墓と伝えられ、天保年間立替られたもの  
と言う。古くから巻狩が行なわれた処と言うが、正平年間（一  
三四六）に早奈良村の中に「かちはら」と地名が見られる。

建造物 玉目丹後守の墓（一基）

所在地 大字玉目

宝篋印塔の頭部二

体が数百年を経たタ  
ブの巨木に抱かれた  
格好になっている。

天文年中（一五四

三頃）に討死したと  
伝えられる玉目丹後

守の墓である。





建造物 今村氏族の墓（一基）

所在地 大字今字平原（役場庁舎の裏の山にあり）



今村山城守の弟の墓と伝えられる。

附近の、大字今字

中園に今村家累代の墓地がある。

今村家累代が居住

した処は、蘇陽町役

場庁舎敷地となっている。此処には今村の出城がありお花畑もあり代々居住した処といわれている。

昭和三十五年に至り今村虎熊氏が蘇陽町役場庁舎敷地として寄贈、現在に至っている。

建造物 猿丸太夫の墓（一基）

所在地 大字柳字西猿丸

放浪の歌人として有名な猿丸太夫は狩猟を好んだが、太夫の母からきびしく止められていた。小雨の日に昼食を持たずに狩猟に出掛けた太夫に、母は昼食を届けに山に入ったが、太夫は蓑を着た母を獲物と間違えて射してしまった。母を殺した太夫は泣

く泣く母の遺骸を葬り、それきり狩猟を

止めたと言う。

奥山に紅葉ふみわ

けなく鹿の

声きくときぞ秋

はかなしき

と詠んだと言われる。

母を葬った処は猿丸の観音堂の「檜」の大木とされているが、

昭和四十五年に落雷のため枯木となり今は切り株が残っている。

猿丸太夫の墓は、タブの大木で横に

なる神のおとも高き宿人の

よをさるまるの奥津城おくつきぞこれ

有雄

猿丸の君が代の名神さびて

残るぞしるし、おく津城つっきの塚

□ □

と甲斐有雄氏（野尻尾下出身）の歌碑が建てられている。

猿丸久元氏の著書「ひなた道」の中で、我が家は猿丸太夫の直系なりとそのルーツを述べているが、太夫は放浪の歌人として、住所とした処の三ヶ所の



長野県上水内郡戸隠村

金沢市笠舞

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺の猿丸峠

に猿丸神社として祀られている。

大分県鶴崎市（鶴崎半島）に猿丸踊が伝えられているとしている。

猿丸では毎年八月七日に地区の人々が墓掃除を行っている。

太夫の調査は全国的に行われていると述べられている。

## 観音

大乘仏教で説かれる菩薩の一人で漢訳を観世音、観自在、観音、観世自在とも云う。

観音は目だけでなく、耳、その他の感覚器官を通じて、すべての現象を観察する自由自在な王者である意味と云う。

大乘経典の中でこの観音菩薩の事を説き、その功德を賞賛しているのは法華経がはじまりで、その中の観世音菩薩普門品は「観音経」の名で呼ばれている。

観音は大慈悲心の体現者とされ、あらゆる形の苦難から人々を救う力があり、また救済のために、三十三の化身を現わして法を説くと云われている。観無量寿経では、観世音は勢至菩薩と並んで阿弥陀如来の脇侍（立）とされ、一方では衆生のため

尽すとされている。

密教の流行とともに観音像は六観音の姿で示されるようになり

1. 人々を救うため綱（絹索）を持つ不空絹索観音
2. 頭上に十箇の仏の首を持つ十一面観音
3. 宝冠に馬の頭をのせ観音にめずらしく、怒りの表情を見せる馬頭観音
4. 宝珠を持つ如音輪観音
5. 四十本の手をもち、その手にそれぞれ目がある千手観音
6. もとの姿の聖観音

また阿弥陀信仰に伴い、阿弥陀三尊像や来迎図に脇侍（立）として描かれて来た。

平安朝時代以後、観音三十三化身にちなみて、三十三ヶ所の観音霊場を巡拝するようになる。那智山を中心とする「西国三十三ヶ所」がこれである。

慈悲深い観音は古来から女性と見なされているが、町内でも観音像は各々の地区に安置されている。何時の時代に於ても慈母の偉大な存在は女性の天恵のものである。我々先祖が残された尊い文化的遺産でもある「祠」を、大事にしたいと念ずる所以はここにもあると考えられる。

空海（弘法大師）



平安時代初期に開かれた「真言宗」の開祖で「お大師さん」と親しまれている。

光仁天皇の宝亀五年（七七四）讃岐（香川県）善通寺で出生され、俗姓は佐伯氏、十五才の時母方の伯父、阿刀大足あとのおたりについて京に上り論語、儒学に専念し、仏教を石淵寺いそみの勤操師ごんそうしに学ばれる。密教の秘法である「虚空藏求聞持法こくぞうくもんじほう」を窮め、二十四歳の時「三教指掃さんごうしさい」を著し仏教の優越を説かる。桓武天皇の延暦二十三年（八〇四）三十一歳で密教修業のため「唐」に入国されたが、惠果師死去のため三十三歳の時帰国し筑紫（福岡）の観世音寺に留り、大同四年（八〇九）に入京、高雄山寺に住す。この頃に天台宗の「最澄」との交友が始る。嵯峨天皇の信任があつく、弘仁元年（八一〇）東大寺の別当に任せられ、弘仁七年（八一六）四十三歳の時に和歌山県高野山金剛峯寺を修業の場として廻り、弘仁十四年（八二三）に東寺を賜った。これ以後は庶民教育や経世済民のため諸国を廻られる。四国香川県の「満濃池」の修築は有名である。

六十二歳の春に「遺告二十五ヶ条」を制定されて、仁明天皇の承和二年（八三五）に入定され、本年は一一五〇年になる。

今日「御大師さん」として親しまれる所以は、経世済民に尽された大師の御遺徳に依るものである。

## 観音堂

所在地 大字柳猿丸

十一面観音像を安置、弔鐘、

享和三年（一八〇三）石像十一

番あり。

猿丸太夫の母を葬ったと伝え

られる大櫓の切跡がある。



## 真教寺観音

所在地 大字柳柳谷

見造（繕）村根元記に

大梵天皇 天下泰平

奉建立南〇部州大日本國鎮

帝釋天王 國家安全

西肥後州阿蘇郡南郷猿丸村の内

見作（繕）村 真教寺

十一面観世音菩薩本堂

一宇 大願主 敬白



貞享三年（一六八六）中旬  
成就畢

大願主 佐藤佐左右衛門

尉重次

入道 釋

明空 花押

見作（繕）村は猿丸の北方に  
あった村で、昭和の戦後まであ  
ったが現在は廃村で村はなくな  
り柳谷に移転したが、戸数は数  
戸あったと言う。

### 昭揚山 安養禪寺

所在地 大字柳

加藤忠広公の時代に佐藤清左  
衛門尉忠重が早栖村の代官を蒙  
りし時、柳村の雷木うらぎの中にあっ  
た観音像を一宇建立して、安養  
寺と号して祭祀したものとある  
としている。石仏十五、十六番  
を合祀してある。



### 東祇山東光寺（薬師堂）

所在地 大字高辻字前

本堂は天正年間（一  
五八〇）焼失した東  
照山東光寺の薬師如  
来像及び諸仏像を再  
刻して安置したもの  
で、境内に五輪塔の  
一部が残されている。

「東照山東光寺は十  
間四面にして本寺は

河尻大慈寺の末寺也、薬師瑠理光如来鎮座したもう事、天正十  
六年（一五八八）子年春三月より、文久三亥年（一八六三）迄  
二百八十九年に相成る。是より北に当り寺屋舗（敷）と申。い  
□の弥惣太之に住居す。

右、小倉村 施主 惣太郎

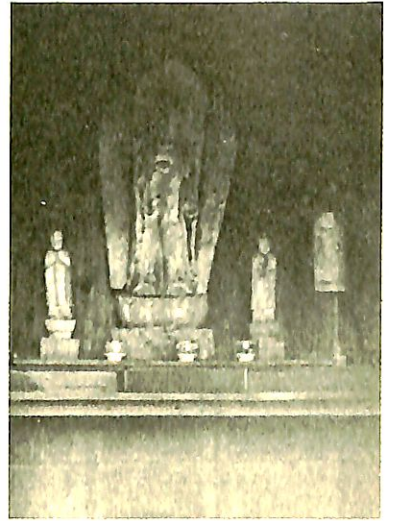
と棟簡にあり、薬師如来、愛宕如来外数体が安置されている。

### 手立山延福寺阿弥陀

所在地 大字高辻字前三五三







通称「堂山」と言  
う。阿弥陀如来像が  
安置され、敷地内に  
板碑、東光寺が焼失  
した時にあった石灯  
籠、宝篋印塔、卍の  
刻まれた石が埋られ

たと伝えられているが、近年その一部が出土している。

### 東照山東光寺の趾

所在地 大字高辻字園五五四番

河尻大慈寺の末寺として十間四面の規模であったが、天正年間（一五八〇）に焼失したと言われる。明治年代の終り頃迄住家があったが現在畑となり、通称「寺屋敷」と言う。

一説には長谷の竜宝山東光寺の前身とも言われている。

### 寺原の趾

所在地 大字高辻字寺原

地名が示すように古い時代の寺の跡である。寺屋敷跡から石器、土器が出土し、附近一帯の畑地からも石器類が多量に出土した。

高辻（小倉）は早瀬と寺原に分かれていたが、寺原一帯の畑十余町歩は、天正年間（一五七四）頃に大友、島津両氏が駐留の節将兵の食糧を確保するため農耕を行った処である。  
島津軍は此処を根拠として草部、柏方面に勢力を張った時代もあるとされている。

### 高祇山西福寺

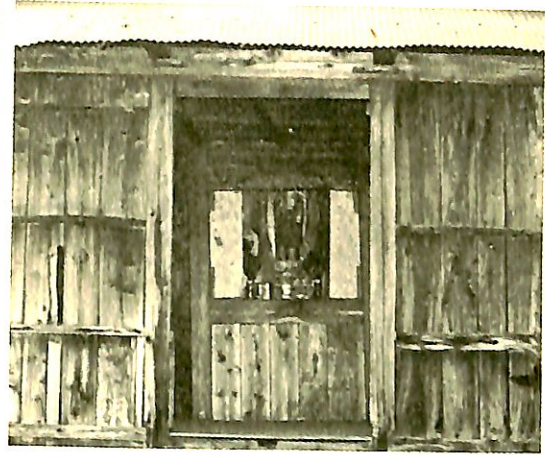
所在地 大字高畑字東原

通称「堂山」と呼ぶ。阿弥陀如来像を安置してあり、現在の堂宇は廃寺のあと建立されたものと言われ建立された年代は不詳。当時の寺の吊鐘と伝られる「風託型」の鐘が、昔を語るかのように風に吹かれ時折りその音を告げている。

敷地内に宝篋印塔の一部、五輪塔の一部が残っている。

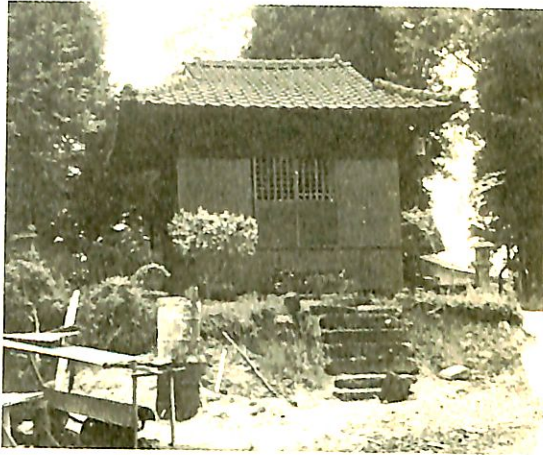


阿弥陀堂



所在地 大字伊勢梶原  
阿弥陀如来像、及び石  
仏十二番が合祀してある。

地福寺地藏堂



所在地 大字東竹原竹原  
阿弥陀三尊、及び石仏  
十七番十八番が合祀して  
ある。

青雲山東蓮寺薬師堂



所在地 大字下山  
薬師如来像を安置して  
ある。

観音堂

所在地 大字柏湛淵（登立）  
馬頭観音像を安置してある。

大師堂

所在地 大字柏湛淵  
弘法大師を安置し、一部岩穴に四一番、四十二番、四十五番



の石仏、火伏地蔵が安置してある。



### 観音堂

所在地 大字下山大切畑

観世音像、外教体合祀、五四番石仏あり。  
従来から大切畑として数戸の戸数があったが、現在は屋敷跡のみが畑として残されている。

### 大師堂

所在地 大字長谷目細

岩屋に弘法大師を祀ってある。

### 正法寺観音

所在地 大字柏湛淵

岩穴に、観音像あり。

里人には乳の神と信仰されている。

### いぼの神

所在地 大字柏湛淵

仏体は洪水に流されたと言う。詳細は不明である。いぼの神として信仰されている。

### 靈山寺大師堂

所在地 大字高畑

弘法大師を祀ってある。

## 火伏堂

火伏地蔵を安置してある。



所在地 大字東竹原野原



## 弘法大師

所在地 大字東竹原野原  
弘法大師及び、十三番、十四番、石仏が安置してある。

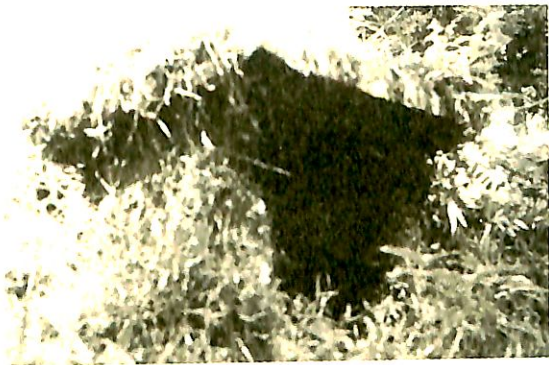
## 弘法大師

所在地 大字八木八矢  
石仏、四四番が安置してある。

## 海蔵寺地像

所在地 大字橋橋小学校横

説によれば大阪方面から勤請されたものと言われている。





### 慈眼山祇福寺観音

所在地 大字橋樵屋

十一面観音、不動明王、毘沙門天、火伏地藏、薬師如来を合祀してある。

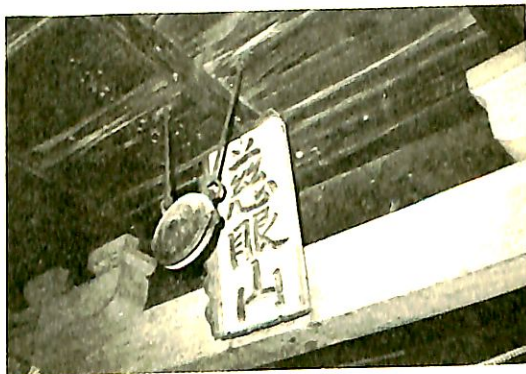
ここには以前に寺があったと言われ、ここにあった阿弥陀如来像は、八木の円龍山永寿寺に移されている。

境内に数百年以上経たと言うタブの大木があり、古い歴史を偲ばせている。

### 慈弘山善福寺観音

所在地 大字伊勢旅草

由緒が古い観音堂で、享保十四年（一七二九）同十八年に栗屋助左衛門真昌、安政七年（一八六〇、萬延元年）高尾野井上角助入道寄進の石灯籠、明治三十七年塩出迫吉田正明寄進の経



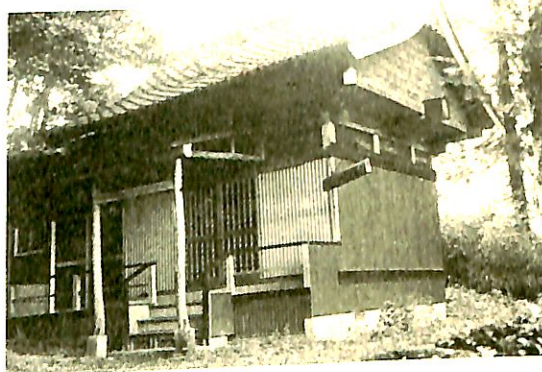
### 延福寺薬師堂

塔（戦捷塔）があり里人の信仰が深い観音堂である。寺内に弘法大師が安置してある。

所在地 大字橋樵山

薬師如来像外数体が安置されている。

享禄四年（一五三一）藤原治秀の銘が刻まれた鰐口があり、寺内に櫓、イチョウウの巨木がある。



### 正等寺不動堂

所在地 大字柏字中湛淵

不動明王、清正公が安置され、寺内に足手荒神も祀られている。

宝篋印塔の一部、天保七年（一八三六）閏九月二十八日、小崎



丹後と判読される約十七センチ角の石柱の一部及び数百年を経たと見られる櫺の巨木が歴史を偲ばせる。

### 大師堂

所在地 大字橋椎屋

千手観音、二十八番、二十九番、三〇番の石仏、西国二十九番の石仏が安置してある。

### 地藏堂

所在地 大字花上花寺

火伏地藏が安置してある。

### 養福寺阿弥陀堂

所在地 大字花上中神働

阿弥陀如来像が安置してある。



### 観音堂

馬頭観音が安置してある。

所在地 大字花上中神働

### 大師堂

所在地 大字花上中神働

弘法大師が安置されている。堂内に、三十番、三十五番、三十六番の石仏が安置してある。

### 大師堂

所在地 大字花上下神働

下神働地内の山中にあったものを現在地に移されたものである。

### 大師堂

所在地 大字橋元橋

弘法大師像、観音像が安置してある。

### 観音堂

所在地 大字花上下神働